©海事プレス社2026 禁無断転載

45年に世界の航空貨物輸送量倍増へ

■ボーイング予測、貨物機は4000機超に

ボーイングは10月28日、今後20年間の航空貨物市場を展望する「世界航空貨物予測2026～2045」を公表した。世界の航空貨物輸送量はトンキロベースで年平均3.5%成長し、2045年に25年の約2倍に拡大すると予測。世界の貨物機数は25年の2395機から67%増の4010機となり、輸送需要の拡大と退役機の更新に対応するため、新造・改造合わせて2930機の貨物機が必要になると見込む。

25年の世界の航空貨物輸送量は、貿易環境の変動や地政学的な混乱の中でも前年比約5%増加し、過去最高を更新した。航空貨物市場は、世界金融危機や米中貿易摩擦、新型コロナウイルス禍などで一時的に落ち込みながらも回復を重ね、長期的に輸送量を拡大してきた（**グラフ①参照**）。今後は、サプライチェーンの多様化、電子商取引（EC）の拡大、人工知能（AI）関連機器などの輸送需要が成長を支える。今後20年間の世界の実質国内総生産（GDP）の成長率を年平均2.6%、貿易を2.4%と想定し、航空貨物はこれらを上回る伸びを示すと予測する。

世界的なAI分野への投資拡大は、半導体やコンピューター、通信機器など、迅速で確実な輸送を必要とする高付加価値品の需要につながる。関連する製造業やデータセンターへの投資を背景に、東アジア―北米、東アジア―欧州の主要市場に加え、東アジア・オセアニア域内でも輸送需要が拡大するとみる。

生産・調達拠点の分散も貨物の流れを変えている。米国が東アジアから航空輸入する貨物量のうち、中国発の割合は17年の3分の2超から、25年には3分の1強に低下。一方、中国以外の北東アジアと東南アジアの合計は約3分の2に拡大した。地政学的な不確実性や通商政策の変化を受け、企業が複数の地域に供給網を分散する動きが進んでいる。

地域別では、アジア発着の貨物流動が成長を主導し、世界市場の約6割を占めると予測する。世界最大の東アジア―北米市場は45年までにほぼ倍増。国際市場では南アジア―東アジア間が年平均5.9%増と最も高い伸びを示し、輸送量は25年の3.2倍に拡大すると見込む。東アジア・オセアニア域内は年平均4.4%増、中国国内は3.9%増、インド国内は6.2%増と予測している（**グラフ②参照**）。

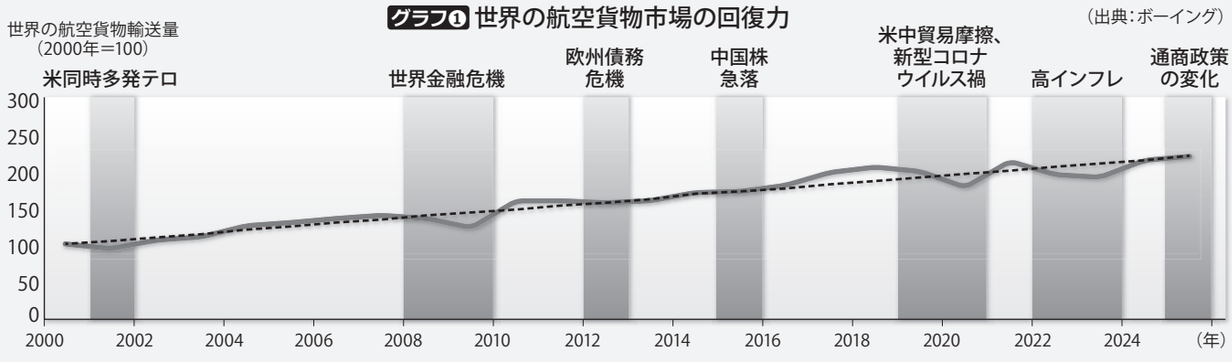
ECでは、消費者への直接販売の広がりや、新たな事業者・ビジネスモデルの登場が航空貨物やエクスプレス輸送の成長を促す。特に南アジア、東南アジア、中南米で、迅速かつ確実な配送や時間指定輸送の需要が高まるとみる。インテグレーターの成長率は市場全体を上回り、世界の航空貨物輸送量に占めるシェアは45年に約25%に高まる見通しだ。

貨物機の導入需要は、大型・中型ワイドボディ機からナローボディ機まで幅広い機体区分に及ぶ（**グラフ③参照**）。計2930機のうち、約55%は輸送力の拡大、約45%は老朽化し運用効率の低い機材の更新に充てられる。機材の供給形態では、旅客機からの改造貨物機が約3分の2を占め、残りを新造貨物機が担う。

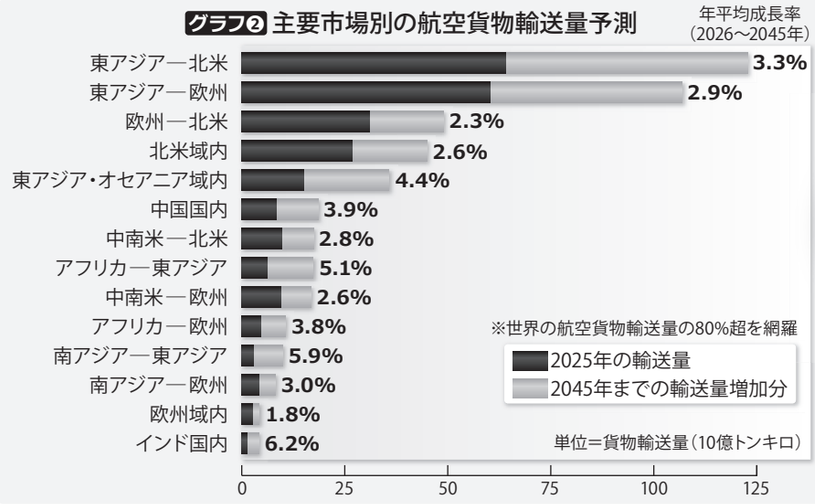
貨物機は、旅客機のベリースペースでは対応しにくい輸送需要を担い、危険物や大型貨物、高付加価値品などの輸送にも対応する。路線設定の柔軟性や貨物に特化した輸送能力を背景に、今後も世界の航空貨物輸送量の過半を輸送すると予測している。

グラフ① 世界の航空貨物市場の回復力

（出典：ボーイング）

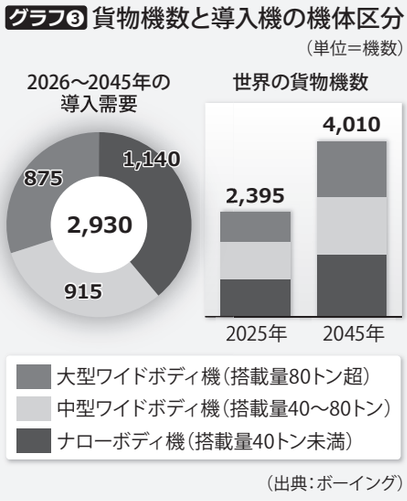


グラフ② 主要市場別の航空貨物輸送量予測



グラフ③ 貨物機数と導入機の機体区分

（単位＝機数）



（出典：ボーイング）